

～今月の花木～



サツキツツジ 皐月躑躅

ツツジ科・常緑低木・野生種は関東以西に分布
ツツジの仲間では開花が5月中旬頃からと比較的遅い。「とりあえずサツキでも植えておけ」と言われるくらい身近に多く植えられ、園芸品種が多い。



人々を引き付ける植栽の一例 (宮城県柴田町～大河原町の一丁目千本桜の一角)

春になり草木が伸びるにつれ、植栽管理作業も増えていきます。毎年同じような作業の繰り返しですが、同じように行かないこともあります。

植栽管理とは

辞書や検索で「植栽」と調べれば人為的に植えられた植物や植物を植える行為とされ、その通りなのですが、植栽管理となると人為的に植えられた植物の有無に関わらず、身の回りにおける植物に関して何か手を加える行為(作業)が当てはまります。

個人宅のお庭や集合住宅、学校や事業所の敷地、街路樹や公園緑地に至るまで、普段意識する、しないに関わらず、私たちは多くの植栽に接して暮らしています。人為的に植えられた植物以外にも勝手に生える草や木もあり、それらを切ったり刈ったりする仕事も植栽管理には多く含まれています。

毎年生長する植物とどう向き合っていくのか、植栽管理であり、裏面の表にあるように季節による植物の生育特性の応じた管理作業が中心となります。しかし、毎年同じようにやっていると上手にくいくものでもなく、招かれない病害虫の発生や管理すべき植栽の範囲や量が多すぎて手に負えなくなっている場面にも時折出くわします。

また、不適切な剪定など管理作業や植え柵など植栽基盤の不良により植栽が不健全になるなど、課題や問題も起きます。身近な暮らしから、生態系や環境への恩恵をもたらしている植栽がもつと愛され理解されるような世の中にならないかと願い、倒木事故など防ぐような活動と共に、ノビノビとイキイキとした植栽環境を目指したいのです。

様々なケヤキの街路樹

よく見かけるケヤキの街路樹は路線によって剪定の仕方など管理手法が異なっており、興味を惹かれます。道路管理者や住民の意向、電線など競合物の影響が表れています。

○考えている

ケヤキの基本樹形は幹が直立し扇形に樹冠が広がる。この路線では歩道側に電線が競合して枝の広がりを抑えているが、車道側の樹冠を維持するような剪定である。



地上から歩道部も含めて撮影すると、何とか車道側のみでも樹冠を維持したい意向を感じる。



歩道橋上から歩道部も含めて撮影すると、電線側の枝が抑制されている。



歩道橋上から車道部を中心に撮影すると、緑豊かな街路樹に見える。



A・せめてガードチェーンかなあ…パイプなど無い方が良いのでは…



B・このような極端な強剪定もたまに見かける。どう感じるか。



C・側枝を残さずブツ切りして樹冠の広がりが無く格好が悪い。

○考えさせられる

A・ガードパイプ設置時に幹が当たるから幹を削っている。
B・C 樹形や樹冠を無視した強剪定。大きくなりすぎ縮小して樹形を再構築ならまだ良いのだが…



樹形や樹冠を維持した剪定例。



空間があれば樹冠を拡大し維持した剪定が望ましい。



ビルに囲まれた通りでも樹冠の拡大・維持を目指している例。

○好例や理想か

街路樹の樹冠を大きく維持する事は舗装された地面に届く夏の灼熱の日差しを遮り地表面の温度を下げ、都市のヒートアイランド抑制にも効果がある。

